

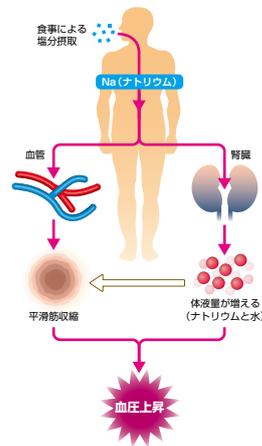
高血圧

Hypertension

血管がもろくなり、 多くの病気が引き起こされる

高血圧症は様々な病気を引き起こします。動脈の内側に常に強い圧力がかかるために、血管壁が硬くもろくなり、狭くなったり、曲がったりします（動脈硬化）。とくに細い動脈が影響を受けやすく、腎臓や心臓、脳などの細い動脈の多い組織の機能が落ち、腎硬化症などになります。心筋梗塞や脳梗塞の危険も増大し、さらに動脈が破れて眼底出血、脳出血、くも膜下出血などが起こります。また、動脈が狭くなると血液がすみずみまで届きにくくなり、血圧が上がるため、心臓は血液を送り出す力を増やそうと心筋を肥大させます（心肥大）。心肥大が続くと心不全をきたし、動悸や頻脈、呼吸困難になることがあります。

一方で、高血圧症には自覚症状がほとんどないために自分で気づくことが少なく（サイレントキラー）、また高血圧症と診断を受けても、その怖さを実感しにくいのです。頭痛、頭が重い感じ、顔や体のほてり、めまい、耳鳴り、不整脈、動悸、胸の圧迫感などを自覚するときには、高血圧はかなり進行しています。



食塩感受性高血圧の メカニズムが明らかに

高血圧の患者さんの中には、食塩感受性が高く、塩分を摂りすぎると高血圧になりやすい人がいることがわかっています（食塩感受性高血圧）。腎臓・内分泌内科の藤田らの研究グループでは、食塩感受性高血圧では、食塩を摂りすぎることによって交感神経が活発になり、それによって分泌されるホルモンの影響で、食塩排泄に関わる遺伝子（WNK4遺伝子）の働きが抑えられてしまうことを明らかにしました。またこの他にも、食塩感受性高血圧の発症には、腎臓の細胞の形の維持などに必要なタンパク質Rac1が、塩分貯留性ホルモンのアルドステロンの働きを増強させることも発見しています。

食塩と高血圧の関係

